

質問1 あなたの住まいの地域はどちらですか。

本アンケートは、無作為に抽出した3,000名の一般住民を対象に行いましたが、9通が無効となったため、有効配布枚数は2,991通となります。

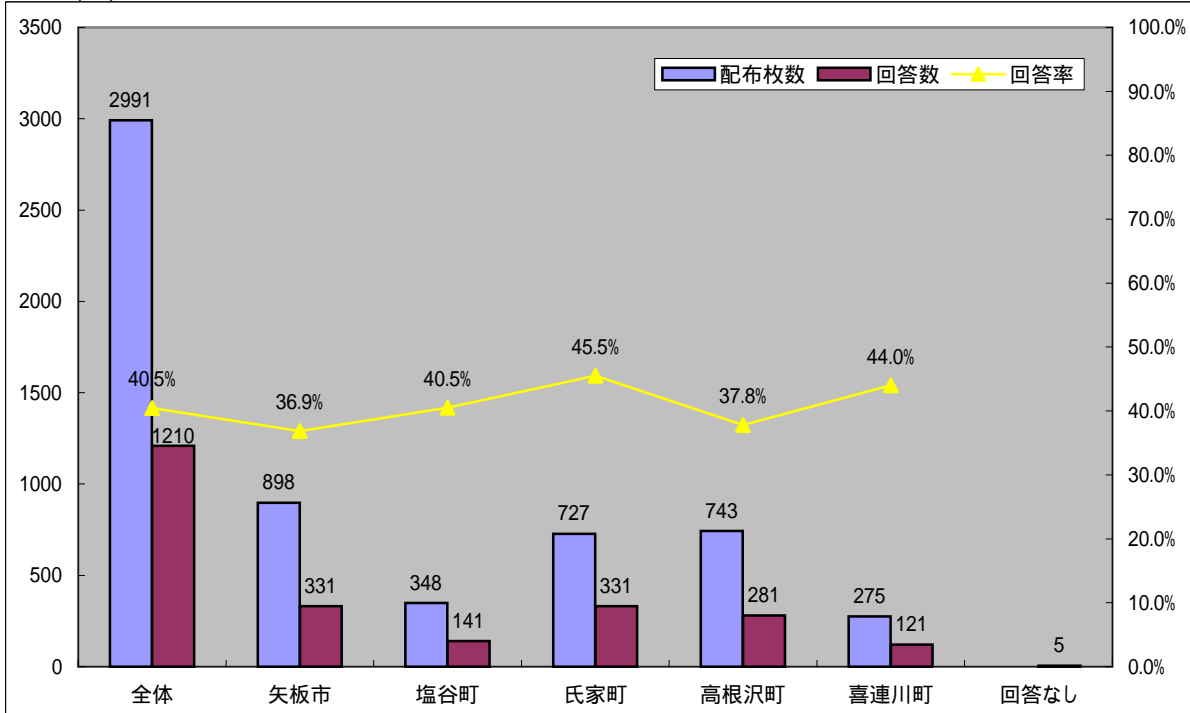
回答数は1,210通で、回答率は40.5%となっています。

市町別の回答率をみると、矢板市36.9%、塩谷町40.5%、氏家町45.5%、高根沢町37.8%、喜連川町44.0%となっています。氏家町と矢板市では、8.6%の格差があり、最も人口の多い矢板市で関心が低い結果となっています。回答率の低い市町に関しては原因と課題を追究し、地域住民の関心・興味を高めるための対策が必要になります。

現に通院や入院をしている方を対象とする個別医療機関の患者アンケートでは、50~60%の回答率となりますが、本アンケート調査は、一般住民から無作為に対象者を抽出しているため回答率が低くなっているものと考えられます。また、住民の皆様にとっては、“かかりつけ医”や“地域医療連携”という言葉に馴染みがないため、回答を躊躇したことも推測されます。

いずれにしても、地域住民にとって欠かすことのできない地域の医療や福祉へ関心を持っている方が40.5%と低い水準になっていることを認識する必要があります。

図表(1) 各市町別の回答数と回答率 n = 1210



質問2 あなたの性別をお答えください。

1市4町全体の男女比率をみると、男性547名、女性658名となり、54.6%を女性が占めています。

各市町の男女の割合もあまりバラつきがなく、いずれの市町においても全体の53.5～56.7%を女性が占める結果となっています。

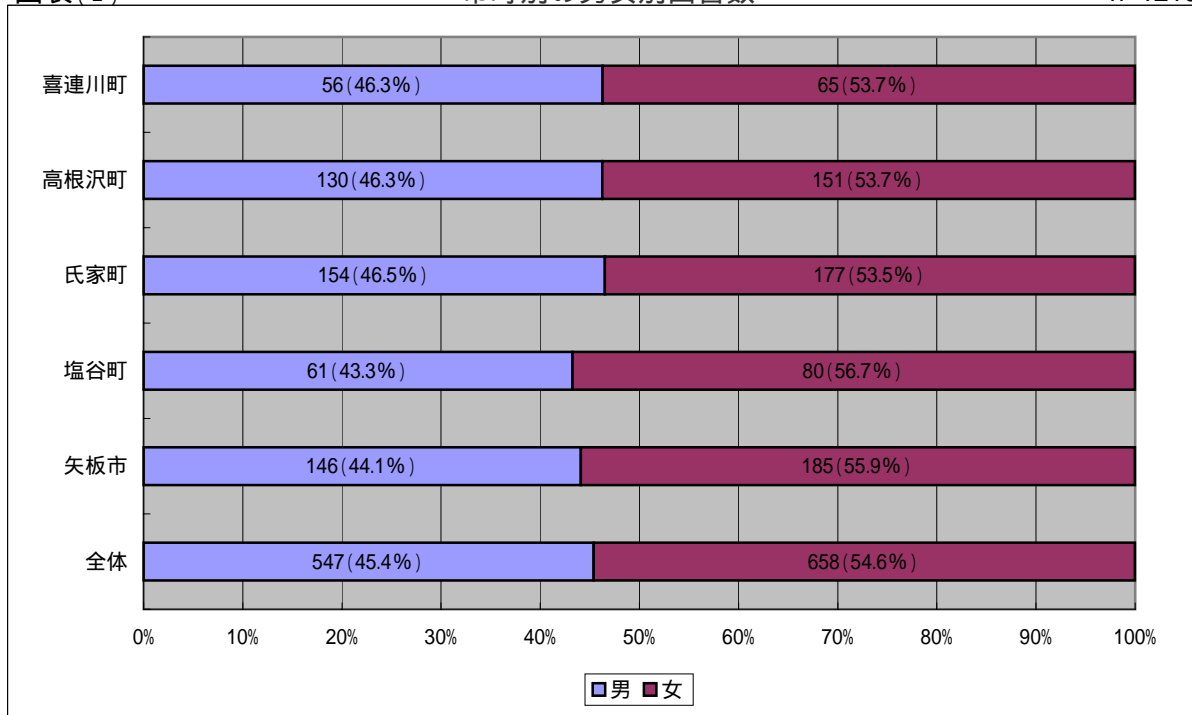
女性が医療や健康に高い関心を持つ理由としては、男女による身体的特徴の違いだけでなく、女性向け雑誌などで健康や医療に関する記事が多く記載されていることや、お子様やご家族が病気に罹った場合に看病の中心的な役割を担うことが多いこと、医療費が家計に与える影響についても関心があることなどがあげられます。

なお、財団法人厚生統計協会が発表している『患者調査』における栃木県の患者の男女割合をみると、男性42.4%、女性57.6%となっており、アンケート回答者の男女比とほぼ同水準となっています。

図表(2)

市町別の男女別回答数

n=1210



質問3 あなたの年齢をお書きください。

年齢3階級別の回答率をみると、「0～14歳」が41.2%、「15～64歳」が36.8%、「65歳以上」が50.1%となっています。

いわゆる現役世代と呼ばれる20～60歳を含む年齢層からの回答率が低い水準となっています。日常生活の多くの時間を仕事に費やしている世代であり、比較的健康を維持している方が多いため、回答率が低くなっているものと推測されます。

年齢10階級別の回答数をみると、「20～29歳」の回答数（93名）が著しく低くなっていますが、これも多くの方が健康な生活をおくっていることに起因するものと考えられます。しかし、この年代からは、診療時間の延長や土日診療を望む声が多くあがっており、勤務時間外で受診できる医療機関が少ないことに対する不満や不安をうかがわせる結果となっています。

「0～14歳」の回答の多くは、親が代筆していると思われるのですが、小児科の不足感や子供の急病時の不安感、医師の子供への接し方に対する不信感などの意見が多くありました。地域の小児科体制の整備や連携、小児科を標榜している医療機関の広報が必要となります。

「65歳以上」の回答率は50%を超えており、他の年代と比べると地域医療への関心の高さがうかがえます。この年代の方は、現に何らかの形で医療機関を受診している方が多く、「院外薬局への移動が煩わしい」、「医師の説明が理解できなかった」、「大量に処方される薬への不安」など頻繁に医療機関を利用する高齢者特有のご意見が多くありました。

一方で、紹介や逆紹介などに関する意見は全くなく、地域医療連携に関しては、ほとんど認知されていないことが推測されます。

この年代の方々には、地域医療連携の仕組みを最も頻繁に利用することになりますので、現在の医療体制や地域医療連携への取り組みに関して、どのような意見を持っているのか注視していくとともに、地域医療連携の仕組みについて啓蒙し、理解・認知してもらうことが大切です。

医師や看護師、職員への感謝の言葉が多く書かれていたのも、この年代になります。

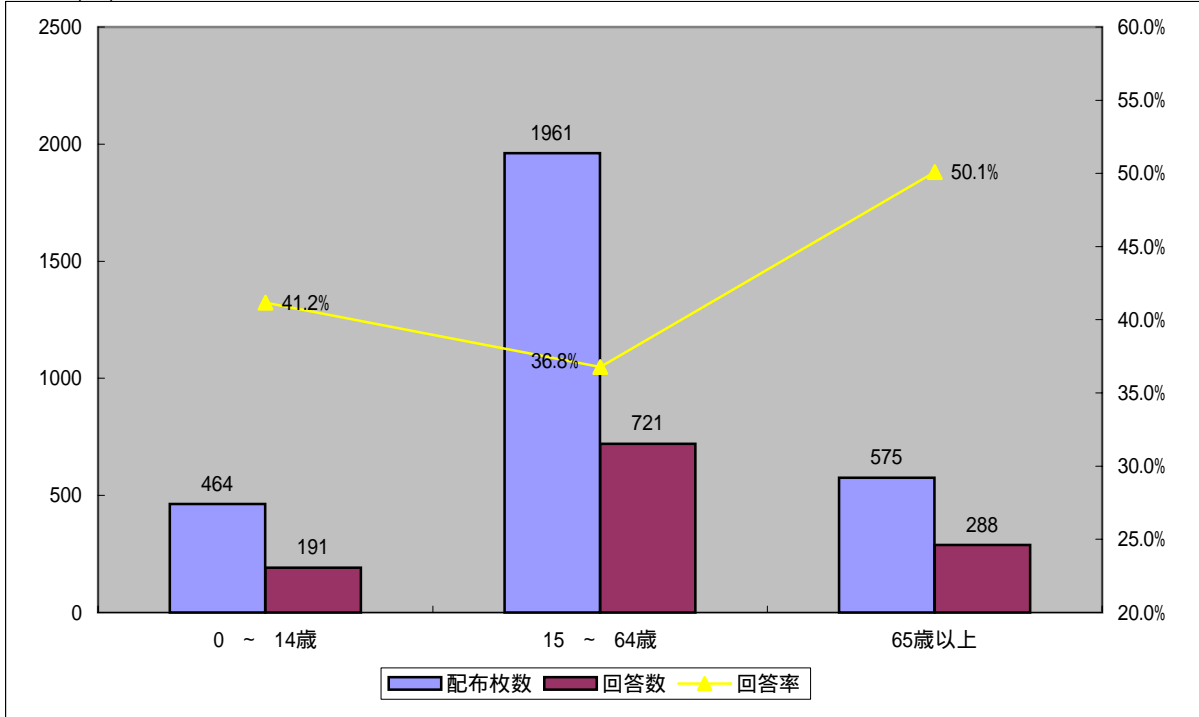
地域医療連携を進めていくためには、地域住民の方々の医療への関心を高めていくための取り組みが必要となりますが、高齢者からは、社会のIT化の進行から取り残されることへの不安の声がありました。一方、若い世代からは、ホームページや電子メールを利用した情報提供へ期待する声が多くありました。したがって、年齢層に応じた情報の提供方法を考えることが重要になります。

現時点では、医療に関する情報提供に満足されている方は、14.2%（質問20）しかおらず、地域医療連携について地域住民を啓蒙していくためには、発信側からだけでなく、受け手側を視野に入れた情報提供の方法やどのような情報媒体を利用するのが工夫していくことが必要になります。

図表(3)

年齢3階級別の回答数

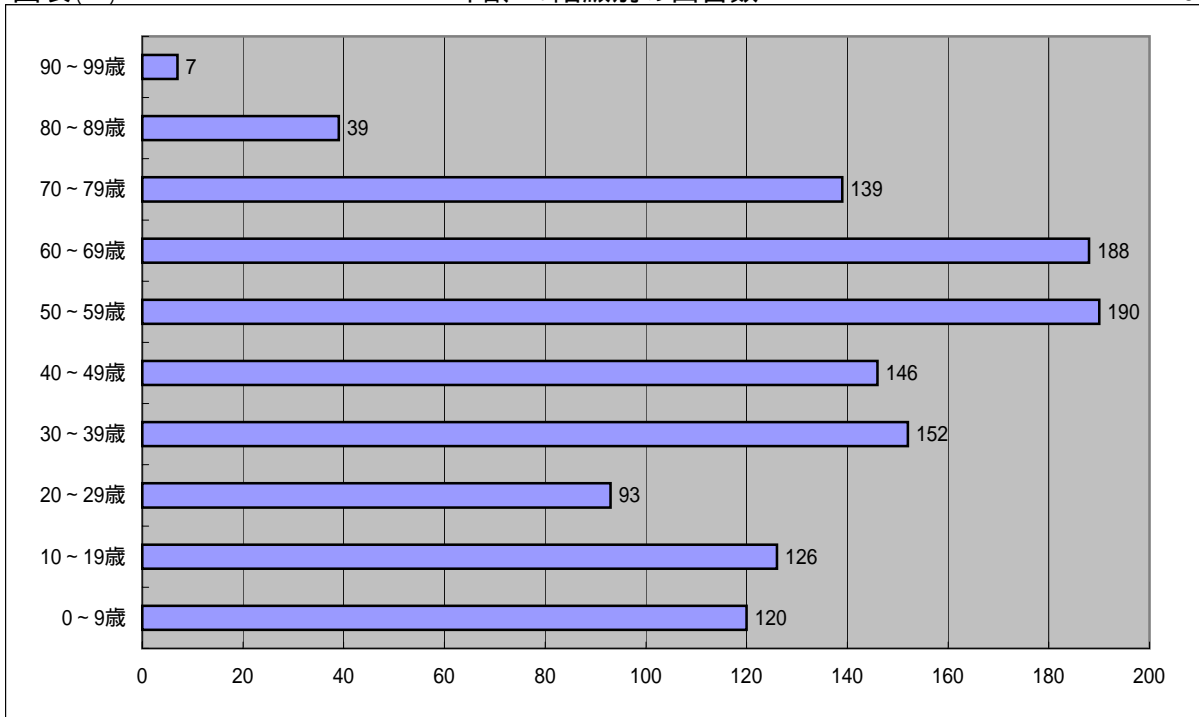
n=1210



図表(4)

年齢10階級別の回答数

n=1210



質問4 あなたは「かかりつけ医(主治医)」がいますか。

1市4町全体のかかりつけ医の定着率は、62.3%となっています。

市町別にみると、矢板市61.3%、塩谷町69.5%、氏家町59.5%、高根沢町59.1%、喜連川町71.9%となり、高根沢町と喜連川町とでは、12.8%の格差があります。

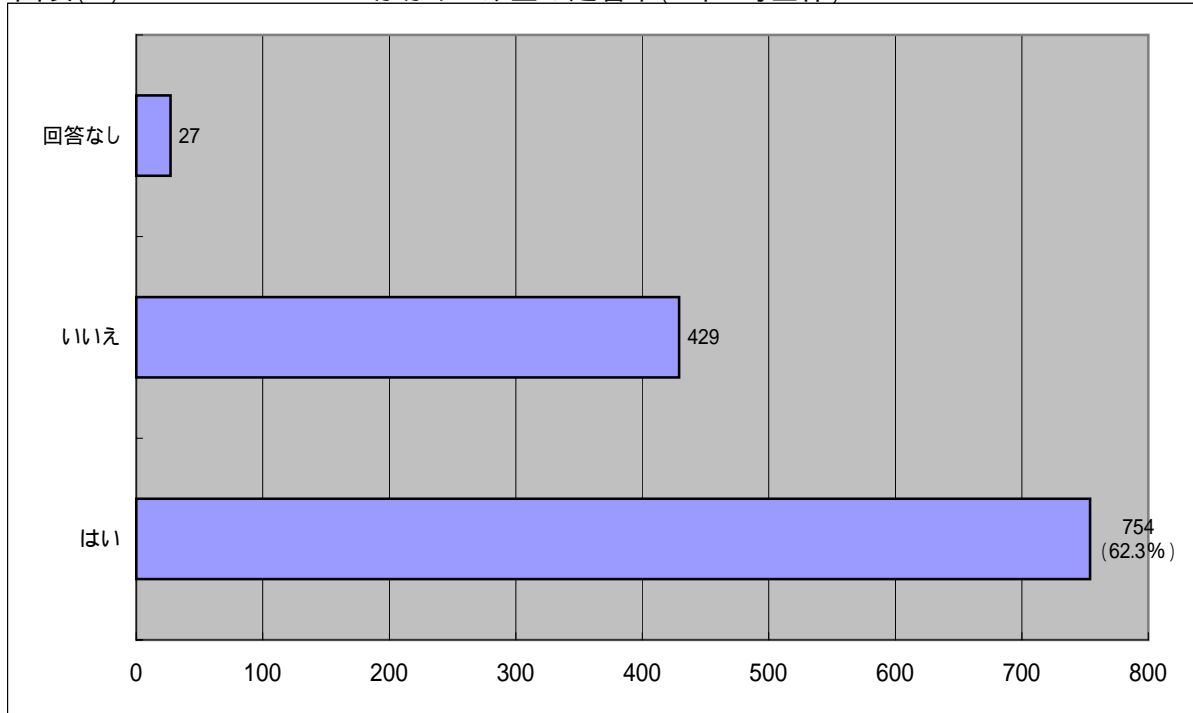
また、氏家町は、アンケートの回答率が最も高かったにも関わらず、かかりつけ医の定着率は低い水準(59.5%)となっており、各市町ごとの地域特性や取り組みの違いなどを調査し、“かかりつけ医”の定着については、市町役場などの行政とも協力して取り組むことが必要です。

「かかりつけ医がいる」と回答している方の中でも、「患者自身でかかりつけ医を選択できるようにしてほしい」、「かかりつけ医が信頼できない」という意見もあり、かかりつけ医について誤った認識を持っている方も少なくないようです。

「かかりつけ医を持つとどのような利点があるのか」、「地域医療連携の中でかかりつけ医はどのような役割を果たすのか」などを十分に広報し、住民の方々の理解を得ることが重要な取り組みになります。

また、そのような取り組みを行う際には、住民の方々は何も分からない・理解していないことを前提にした受け手側の視点で啓蒙活動(案内・パンフレットの作成、広報、説明会等)を行うことが必要です。

図表(5) かかりつけ医の定着率(1市4町全体) n=1210



質問5 あなたが「かぜ」や「腹痛」になった時、どちらの医療機関にかかりますか。

1市4町全体では、640名（52.9%）の方がかかりつけ医を選択しています。

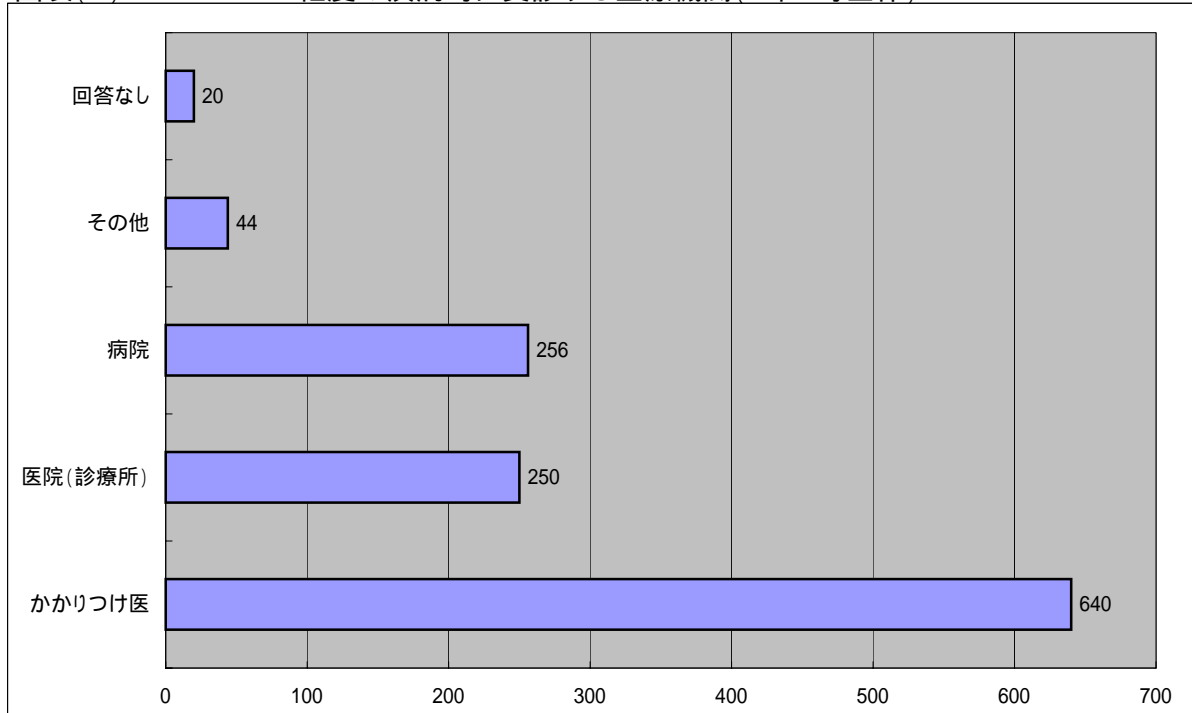
この人数は、質問4でかかりつけ医がいると回答された人数（754名）と比較すると114名少なくなっています。

これは、病院が、かかりつけ医となっているが、質問のような軽症時には診療所を受診する方、慢性期疾患で受診している医療機関をかかりつけ医と認識し、急性期の「かぜ」や「腹痛」は、かかりつけ医以外の医療機関を受診する方などがいることに起因しているものと考えられます。かかりつけ医について誤った認識をしている住民の方も少ないないことが推測される結果となっています。

また、病院を選択されている方も256名（21.2%）おり、厚生労働省が推進している“外来は診療所、入院や高度医療は病院”という医療機関の棲み分けが塩谷郡市医師会の域内には必ずしも合わないことがうかがえます。塩谷郡市医師会としてどのような形の地域医療連携を目指すのか明確にして、地域住民の方々に興味・関心を持ってもらうことが、円滑な取り組みを推進していくものと考えられます。

市町別にみると、質問4でかかりつけ医の定着率の高かった喜連川町（63.9%）や塩谷町（61.3%）では「かかりつけ医」を選択している方が多くなっており、他市町（高根沢町49.6%、矢板市51.1%、氏家町52.3%）では、50%前後にとどまっています。

図表(6) 軽度の疾病時に受診する医療機関(1市4町全体) n=1210



**質問6 あなた若しくはご家族の方が重い病気(心臓発作や脳卒中など)になった時、
どちらの医療機関にかかりますか**

1市4町全体では、643名(53.1%)の方が「救急車を呼ぶ」を選択しています。

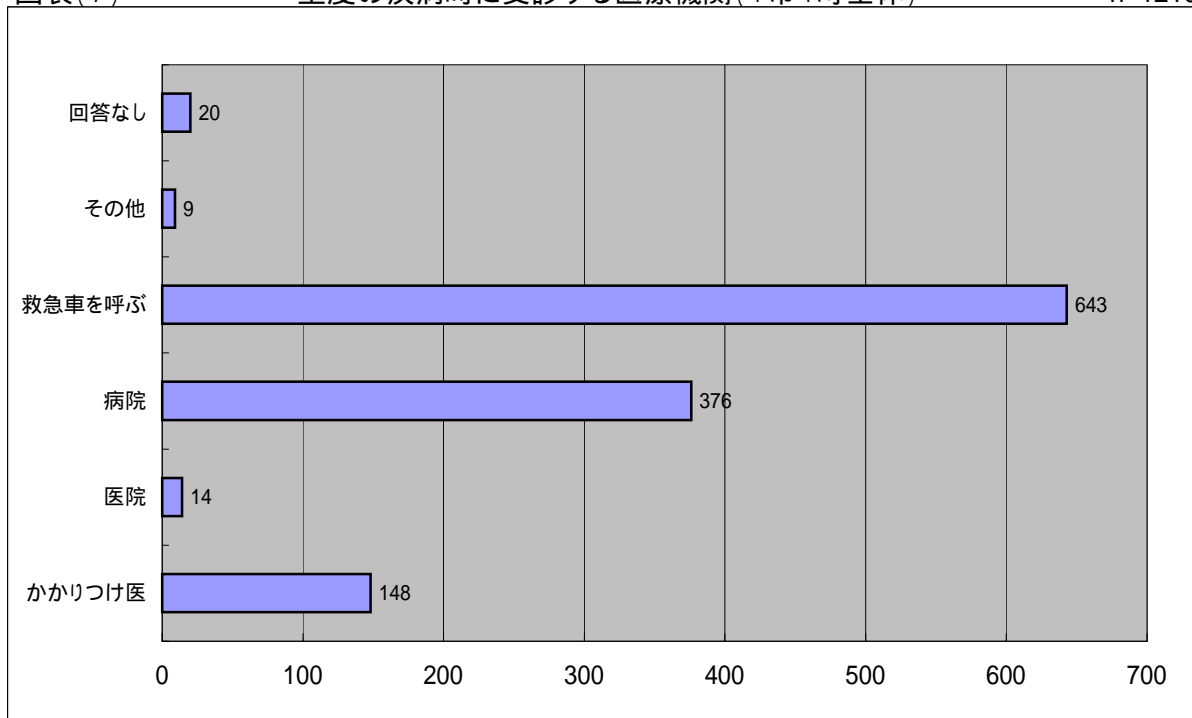
質問23の自由記入欄には、重い病気に罹ったときや救急時について「症状別に最適な医療機関が分からないため、とりあえず救急車を呼ぶ」、「救急車を呼んだのに搬送先が見つからず危い経験をした」など多くの意見がありました。地域の救急体制への不満の声も多数あり、行政側への働きかけと地域の医療機関が一体となって取り組むこと(救急時の対応方法や連絡先などの周知)が必要となります。

地域住民の方々は、万一の場合に適切な治療を受けられることだけでなく、日頃から地域の医療体制に安心感を持てることを強く望んでいます。

そのためにも住民の方々が安心できるような医療を提供し続けることは勿論ですが、十分な医療供給体制が整っている地域であることをアピールするような施策も必要となります。

特に地域医療連携を推進していくうえでは、個別医療機関だけでなく地域全体の医療体制に対する住民(患者)満足度を高めていくことが大切となります。

図表(7) 重度の疾病時に受診する医療機関(1市4町全体) n=1210



質問7 質問5・6で「病院」を選択された方は、どちらの病院にかかりますか。

1市4町全体でみると、「塩谷総合病院」201名（43.6%）、「済生会宇都宮病院」97名（21.0%）、「黒須病院」69名（15.0%）が全体の79.6%を占めています。

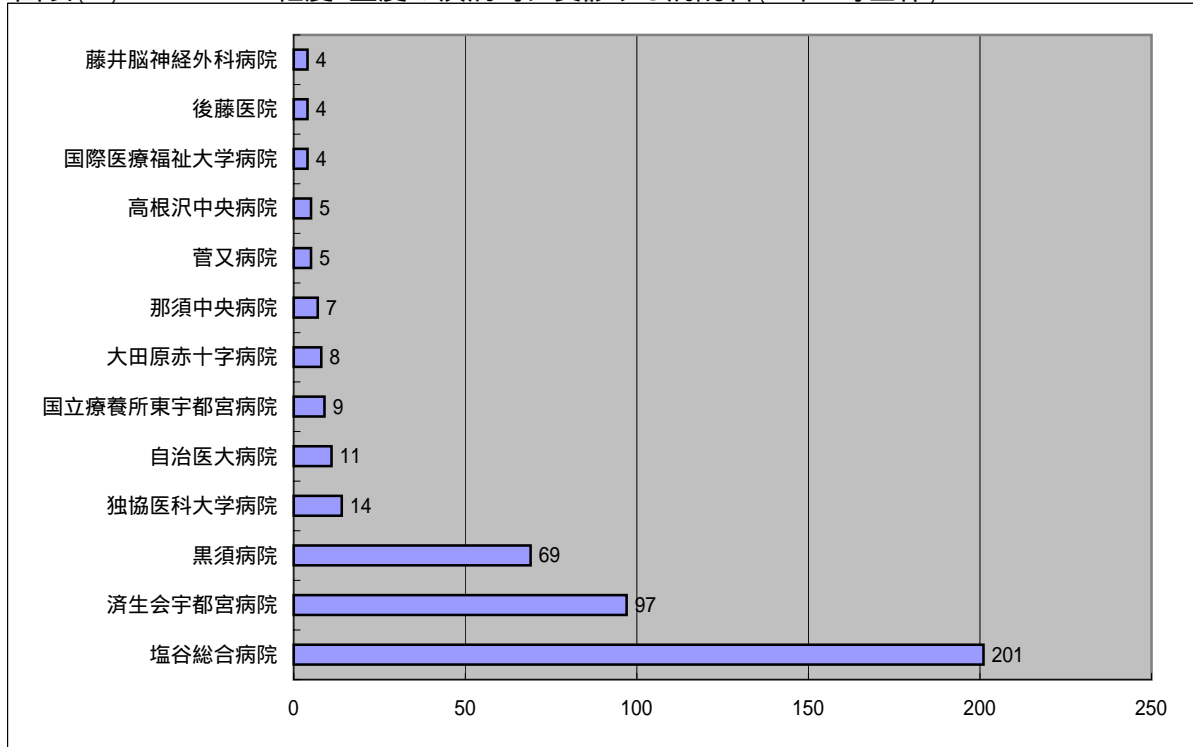
市町別にみると、矢板市、塩谷町、喜連川町では「塩谷総合病院」、氏家町、喜連川町では「黒須病院」が多くの方から選択されています。

病院の選択に地理的な条件が大きな要素となっていることが推測されますが、地域医療連携を進めていくうえでは、患者の疾病に適切な診療・検査を提供することのできる医療機関を受診する仕組みを推進していくことが必要となります。

地域外の「済生会宇都宮病院」の回答が多くなっていますが、居住地によっては立地的に通院しやすいことや勤務地や通勤経路から便利な場所にあること、車社会の地域であるために多少時間がかかっても宇都宮まで通院していることなどさまざまなケースが考えられます。

地域医療連携を進めていくと、これまで以上に診療面を重視して医療機関を選択することになるため、地域内と地域外の医療機関を比較し、必要であれば、地域外との連携も踏まえて考えていくことが今後の課題となります。

図表(8) 軽度・重度の疾病時に受診する病院名(1市4町全体) n=461



質問8 あなたが医療機関を選ぶ際、どのような理由で受診しますか。(3つ以内)

1市4町全体でみると、「通院に便利だから」685名、「診察・治療が上手だから」549名、「医療設備・機器が揃っているから」521名の3点が上位を占めています。

地域医療連携を「症状によって適切な医療機関を受診してもらうための仕組み」と捉える場合には、「通院に便利だから」よりも「診察・治療」や「医療設備・機器」が、より高く評価されるべきと考えられます。

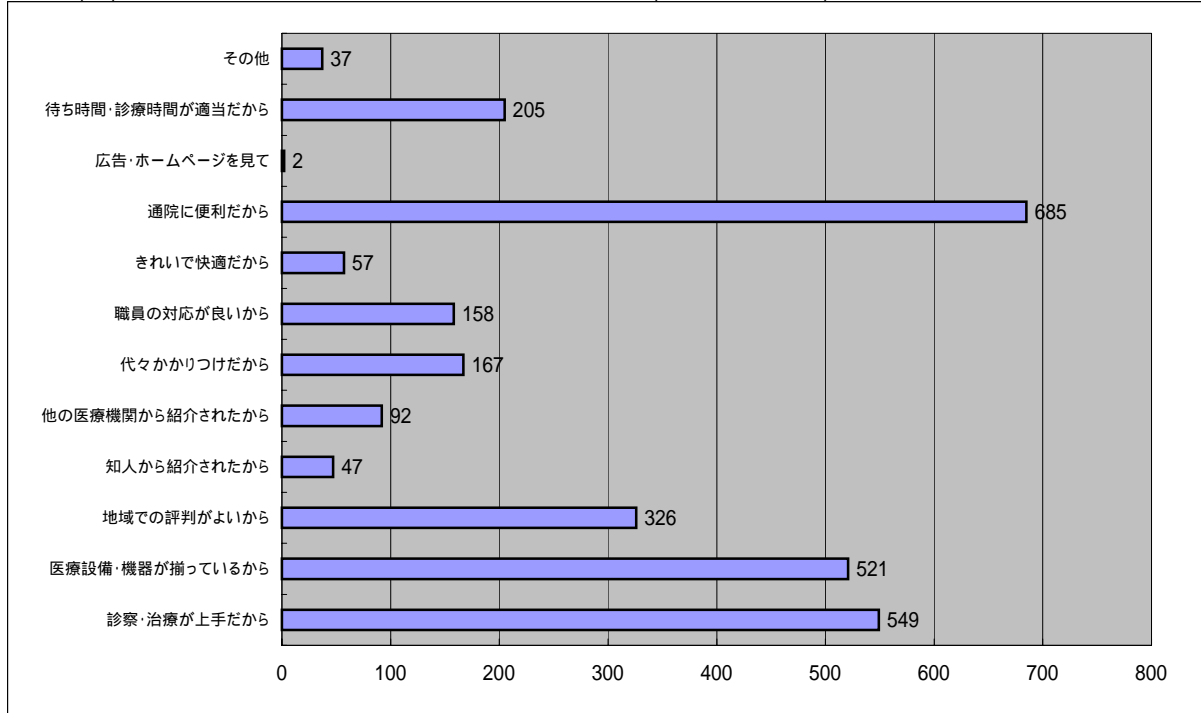
年齢3階級別にみると、1～14歳で「診察・治療が上手だから」が最も多くなっており、小児急性期においては「診療面」が重視されていることが分かります。

選択肢の中で唯一“ヒト”を評価する項目となっている「職員の対応が良いから」は158名とあまり多くの方からは支持されていないことが分かります。今後は、地域医療連携の仕組みについて、各医療機関の職員が地域住民の方々に対し、積極的に説明することも大切な取り組みとなるため、早急に改善すべき課題になります。

「広告・ホームページ」をみては、ほとんど選択されておらず、質問20の地域住民の方が医療に関する情報提供に満足されていない結果と合わせて、対策を考えていくことが必要になります。

地域医療連携を進めていくうえでは、医療機関同士の信頼関係だけでなく、医療機関と患者との信頼関係も不可欠な要素となりますので、「診療の質」に関する評価を上げていくことが重要な取り組みになります。

図表(9) 医療機関の選択理由(1市4町全体) n=2846



質問9 あなたが医療機関にかかる回数・頻度はどのくらいですか。

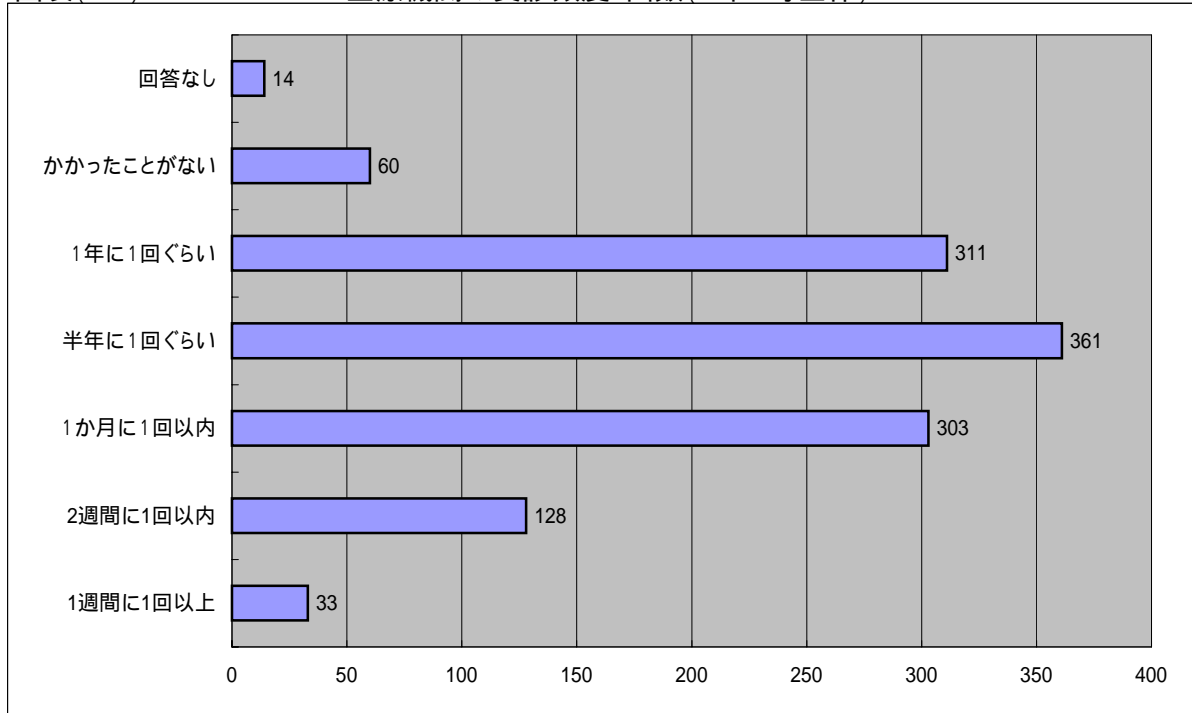
1市4町全体をみると、「半年に1回ぐらい」361名（39.8%）が最も多く、「1年に1回ぐらい」311名（25.7%）、「1か月に1回以内」303名（25.0%）が上位を占めています。

年齢3階級別にみると、0～14歳では「半年に1回ぐらい」、15～64歳では「1年に1回ぐらい」、65歳以上では「1か月に1回以内」が最も多くの回答となっています。

今回のアンケート調査は、一般住民を無作為に抽出しているため、「半年に1回ぐらい」、「1年に1回ぐらい」にも多くの回答が集まっていますが、地域患者の特性を把握するためには、患者の受診頻度を調査することや長期投薬の実施状況や慢性疾患患者の割合などを各医療機関で調査し、地域で統計をとることが必要だと考えられます。

平成14年10月の老人負担や平成15年4月の社保本人3割負担など患者の受診抑制につながるような行政の動きもありますが、このような時代だからこそ“かかりつけ医”をもつことが、万一のときの安心につながることを地域住民に認識してもらうことも重要な取り組みになります。

図表(10) 医療機関の受診頻度・回数(1市4町全体) n=1210



質問10 医療機関を受診する時の交通手段をお答えください。(主なもの1つだけ)

1市4町全体をみると、医療機関への交通手段は、「自家用車(自分の運転)」676名(55.9%)と「自家用車(家族の運転)」352名(29.0%)を合わせると全体の84.9%が車による通院となっています。

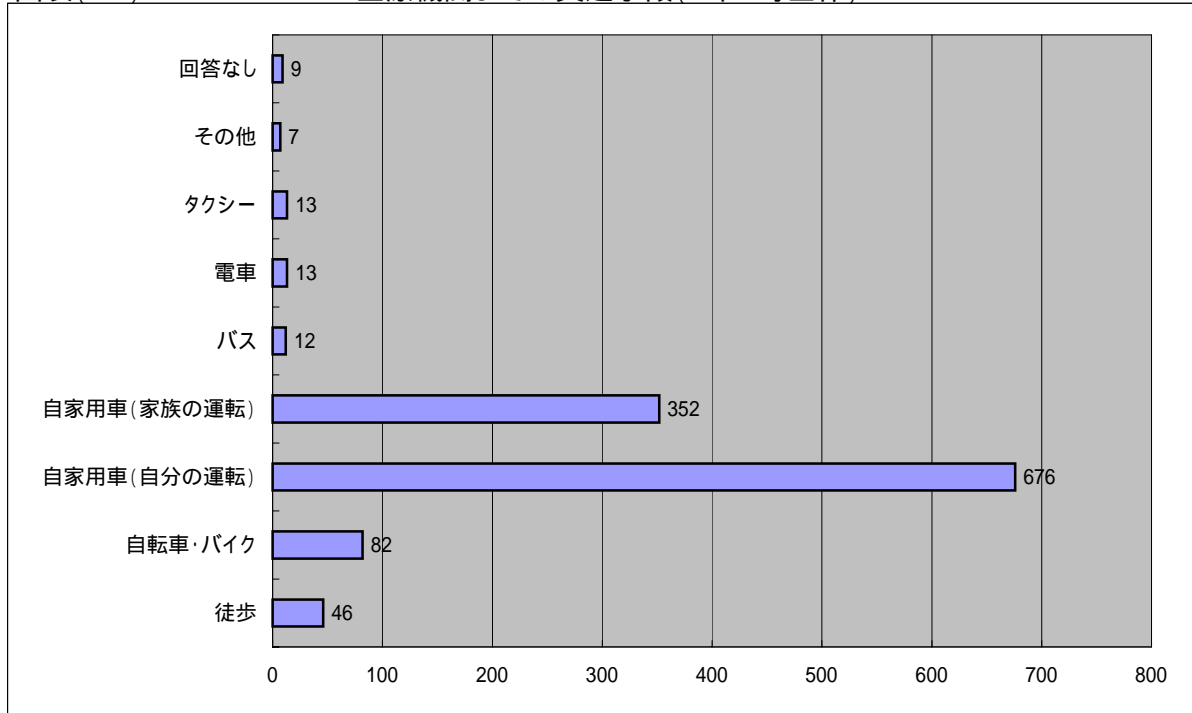
塩谷郡市医師会の域内が車社会となっているため、質問11で通院時間に30分以上と回答されている方は、自宅からかなり離れた医療機関へ通院していることも予測されます。

質問23の自由記入欄には、「駐車場に関する不満」もあがっていましたが、地域特性を考えると、医師会を中心に作成する医療機関マップに駐車場の数や場所を掲載するなどして、早急に解決すべき課題になります。

また、「域内の医療機関に不満があるため、宇都宮まで通院している」という声も多数あり、宇都宮など他の地域の医療機関へ患者が流れていることも推測されます。車社会であるが故に、他の地域へ患者が流れていることも考えられるため、車社会を踏まえて、地域住民の方々に情報を提供していくことが大切になります。

なお、少数ではありますが、「バス」や「電車」、「タクシー」などが交通手段となっている方に対する利便性の向上などの対策も必要になります。

図表(11) 医療機関までの交通手段(1市4町全体) n=1210



質問11 自宅から医療機関までの所要時間(片道)をお答えください。

1市4町全体でみると、「10分以内」597名(49.3%)と「30分以内」485名(40.1%)が全体の89.4%を占めています。

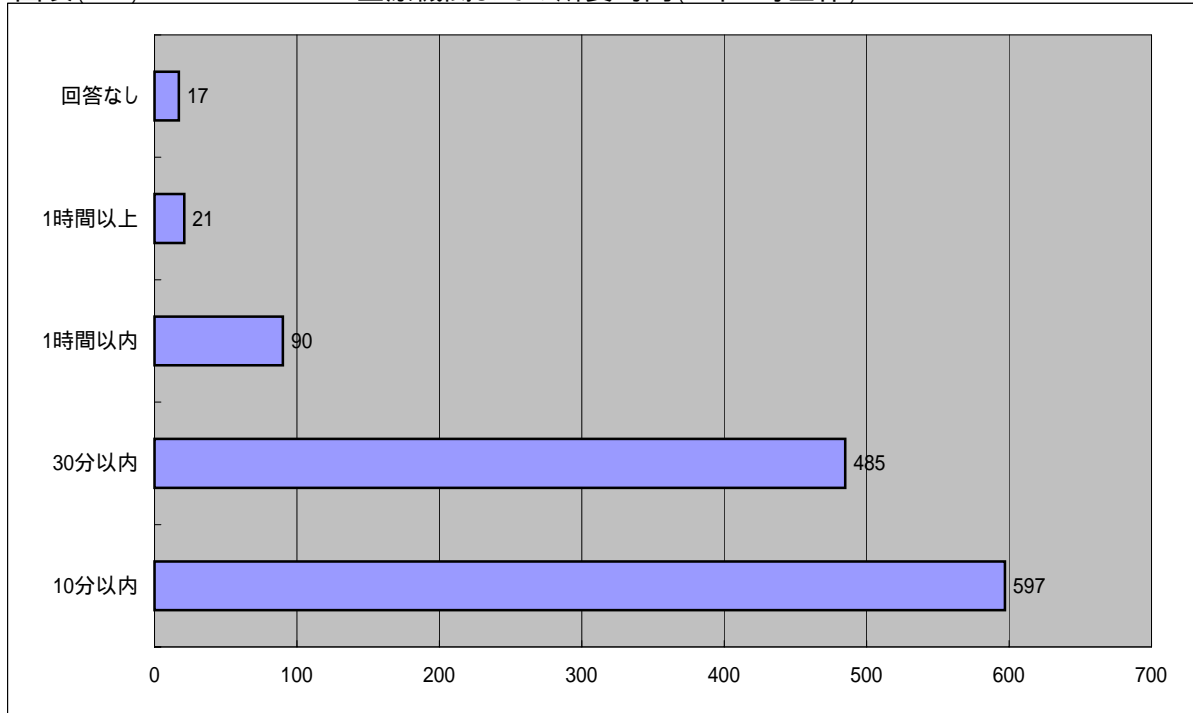
ほとんどの方が自宅から比較的近い医療機関へ通院していると思われませんが、84.9%の方が車で通院している状況(質問10)を考えると、回答者の居住地によっては、塩谷郡市医師会の域外の医療機関を受診している方もいることが推測されます。

“かかりつけ医”は、通院しやすい医療機関を選ぶのが一般的と考えるのであれば、地域内の医療機関の中から住民の皆様が、安心して通院できる“かかりつけ医”を持つことをできるように取り組んでいくことが大切です。

地域医療連携を考える場合にも、住民の方々に身近で、親しみやすく、安心して受診できる医療機関として“かかりつけ医”を活用していただくことが大切になります。

現在は、「通院に便利」であることが医療機関の選択する際の大きな要因となっていますが、将来的には、診療面がより重視されるようになることが地域医療連携を進めていくうえでの課題となります。

図表(12) 医療機関までの所要時間(1市4町全体) n=1210



質問12 あなたは「地域医療連携」という仕組みを知っていますか。

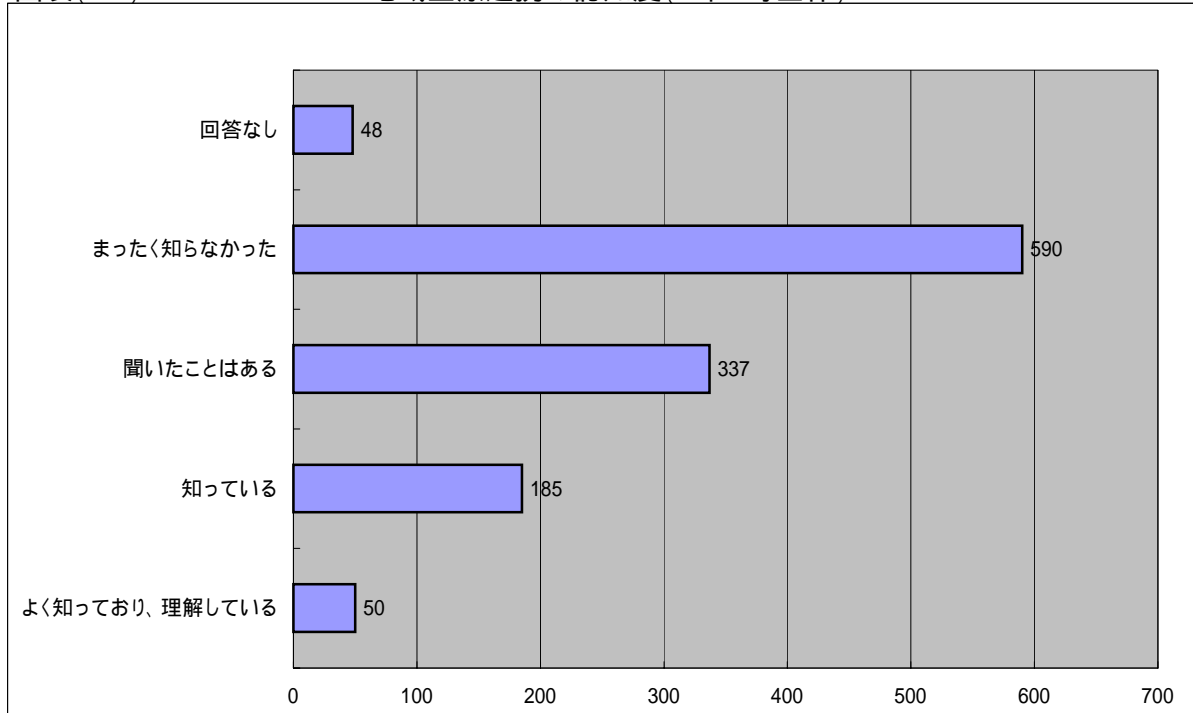
1市4町でみると、「まったく知らなかった」590名(48.8%)、「聞いたことはある」337名(27.9%)となり、認識・認知していない住民が全体の76.7%を占めます。したがって、地域住民の皆様には、地域医療連携の仕組みは、まったく浸透していないと考えられます。

地域医療連携の仕組みを機能させるためには、“まず、住民の皆様には認識してもらう”ことへの取り組みが必要になります。この取り組みに関しては、行政と地域の医療機関、医師会の責任が重いものと受け取れます。患者との関係がなければ、地域医療連携は進むものでなく、提供する側が患者教育・患者啓蒙を推進していかなければ、“有限無実”のものとなってしまいます。早急に対処すべき課題となります。

これらの課題に対する医師会や行政の取り組みとして、「地域医療連携」や「かかりつけ医」について、分かりやすく説明したパンフレットや地域の病院・診療所要覧などを作成するなど、必要な情報を形として作成していく対策が考えられます。

地域医療連携を推進することによって、患者自身がどのようなメリットを享受することができるのか、まずは理解してもらわなければなりません。

図表(13) 地域医療連携の認知度(1市4町全体) n=1210



質問13 あなたは医療機関から他の医療機関(検査・入院等)に紹介を受けたことがありますか。

1市4町全体でみると、「紹介を受けたことがある」439名(36.3%)となっています。

市町別にみると、矢板市39.9%、塩谷町33.3%、氏家町38.1%、高根沢町33.8%、喜連川が44.6%といずれも40%前後となっています。

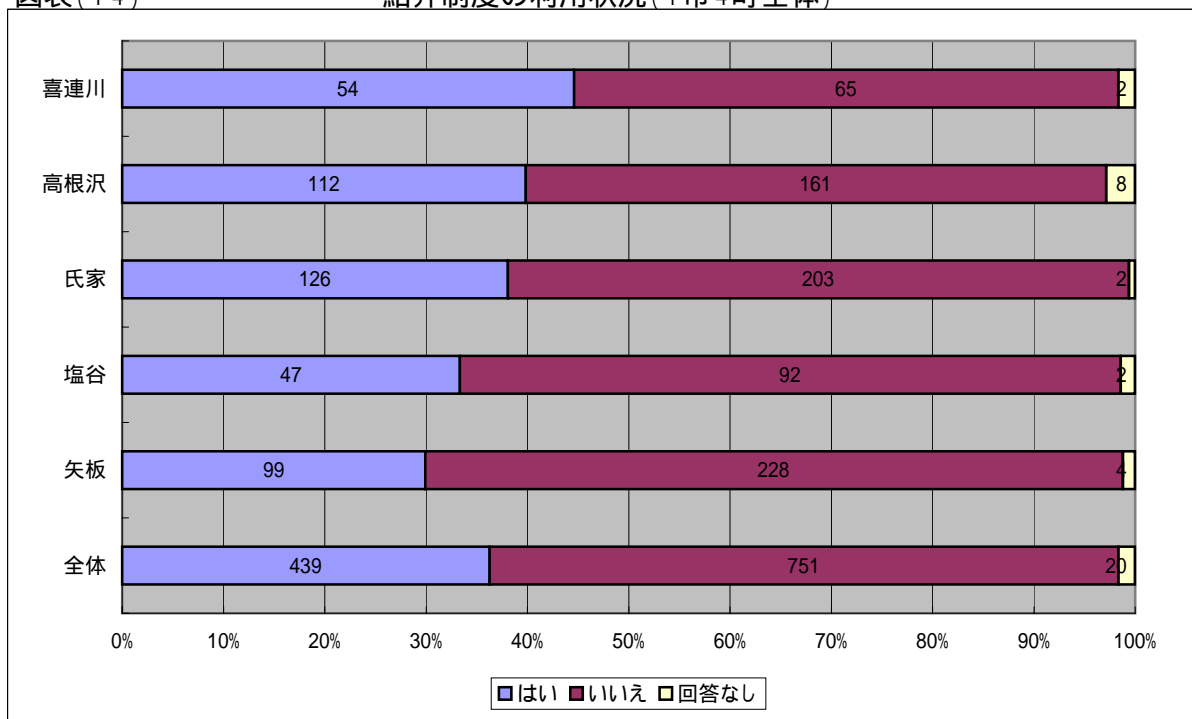
この回答は、地域医療連携を促進している地域、病院数が多く、病院側が紹介率の確保のために積極的に取り組んでいる地域、開放型の病院(医師会立病院など)がある地域などと比較すると低い水準となっています。今後、塩谷郡市医師会の目指していく方向を考えると60~70%を目標に取り組んでいくことが望まれます。

これから地域医療連携の仕組みが地域に浸透していくためには、一方からの紹介だけでなく逆紹介も含めた双方からの連携が必要となります。

このときに、地域医療連携の仕組みに“満足”してもらえることができるかどうか重要となります。したがって、紹介元の医療機関と紹介先の医療機関とは密に連絡を取り合い信頼関係を築くことが大切になります。また、医療機関だけでなく、行政や患者との意識も統一して推進していくことが重要になります。

各医療機関だけでなく、地域の医療機関全体のレベルを向上させていくことが地域医療連携を推進していくためのポイントになります。

図表(14) 紹介制度の利用状況(1市4町全体)



質問14 質問13で「はい」を選択された方で、どのような医療機関からどのような医療機関に紹介されましたか。

1市4町全体をみると、「医院 病院」が294名（67.6%）と最も多く、「病院 病院」95名（21.8%）と紹介先が病院となっているケースが89.4%となっています。

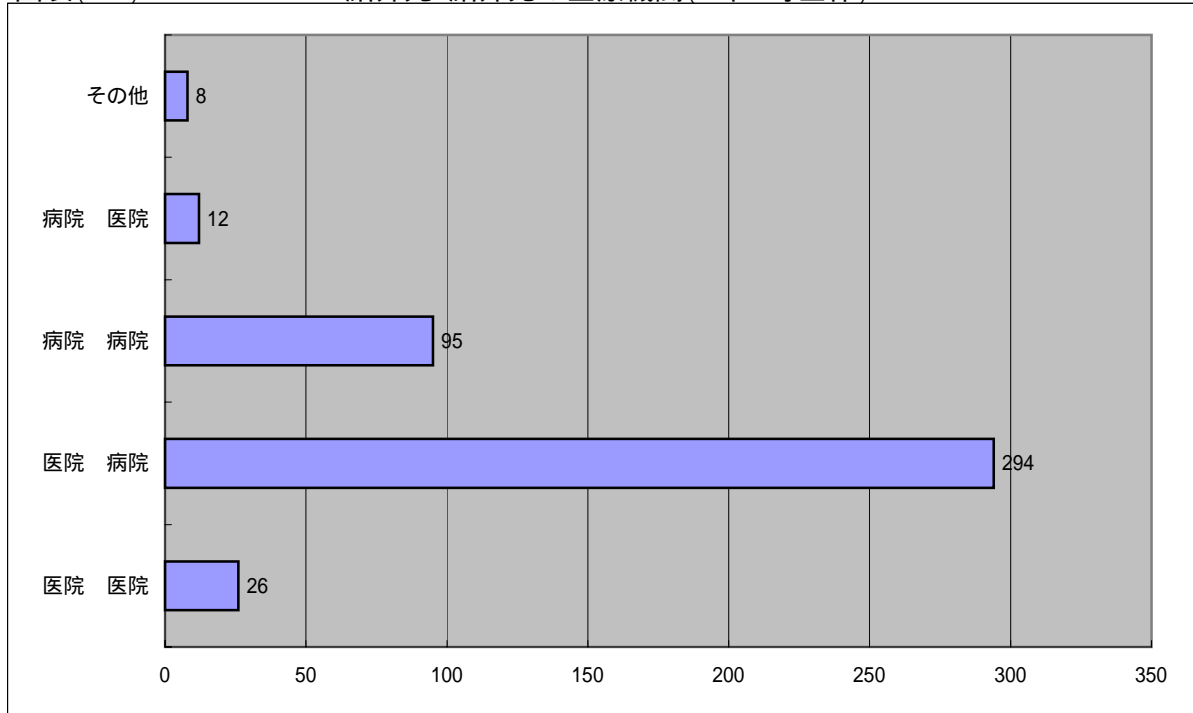
「医院 病院」が294名となっているのに対し、「病院 医院」は12名（2.8%）となり、あまりに低い数値となっています。

地域医療連携を活用するためには、かかりつけ医制度の認識を徹底して、医院から病院へ紹介された患者を、医院に逆紹介する（もどす）ことが重要になります。

また、所謂“逆紹介”だけでなく、疾病（軽度の外来患者など）によっては、病院から医院へ紹介するなど地域の医療機関が役割分担を明確にすることも大切です。

地域医療連携を推進していくためには、病診連携だけでなく、病病連携、診診連携、診病連携を確立させることが必要になります。

図表(15) 紹介元・紹介先の医療機関(1市4町全体) n=435



質問15 質問13で「はい」を選択された方で、紹介された医療機関にかかってみて、満足されましたか。

1市4町全体でみると、292名（66.2%）の方が「満足」と回答しています。

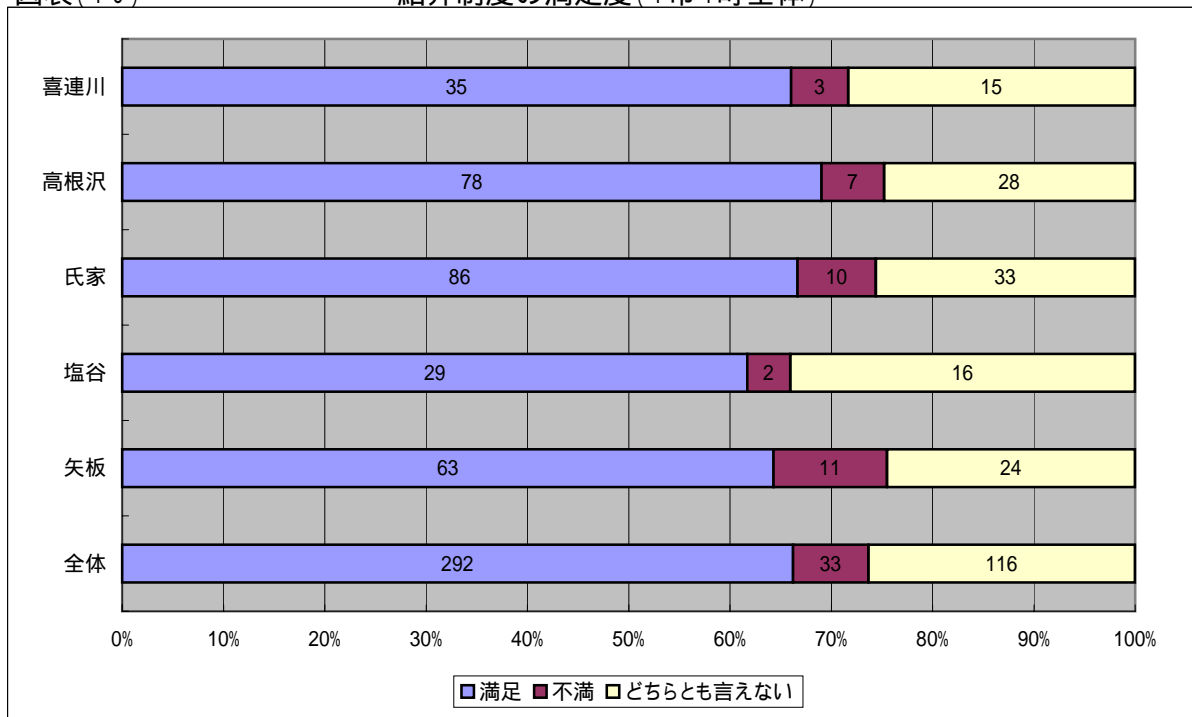
「不満」と回答された方は、33名（7.5%）と少数となっていますが、「どちらとも言えない」116名（26.3%）の方についても「満足はしていない」と捉えるべきです。これらの方々を「満足」に変えていくための取り組みが必要です。

「せっかく紹介したのに、紹介先の対応が悪かったため、自院の評判まで落ちてしまった」という話は少なくありません。

患者の評価を向上させるためには、地域の各医療機関が、連携システムの構築、連携の必要性を認識し、地域医療機関が結束して実施することへの意識統一が必要となります。

地域医療連携の取り組みを地域住民の方々に理解してもらうだけでなく、各医療機関も理解・認識することが不可欠となります。

図表(16) 紹介制度の満足度(1市4町全体)



質問16 質問15で「不満」を選択された理由は何ですか。

1市4町全体でみると、「診察・検査・治療に納得がいけない」15名（27.3%）、「職員の対応が悪かったから」12名（21.8%）、「通院に不便だから」10名（18.1%）となり、この3項目は、現状の大きな問題・課題と考えられます。

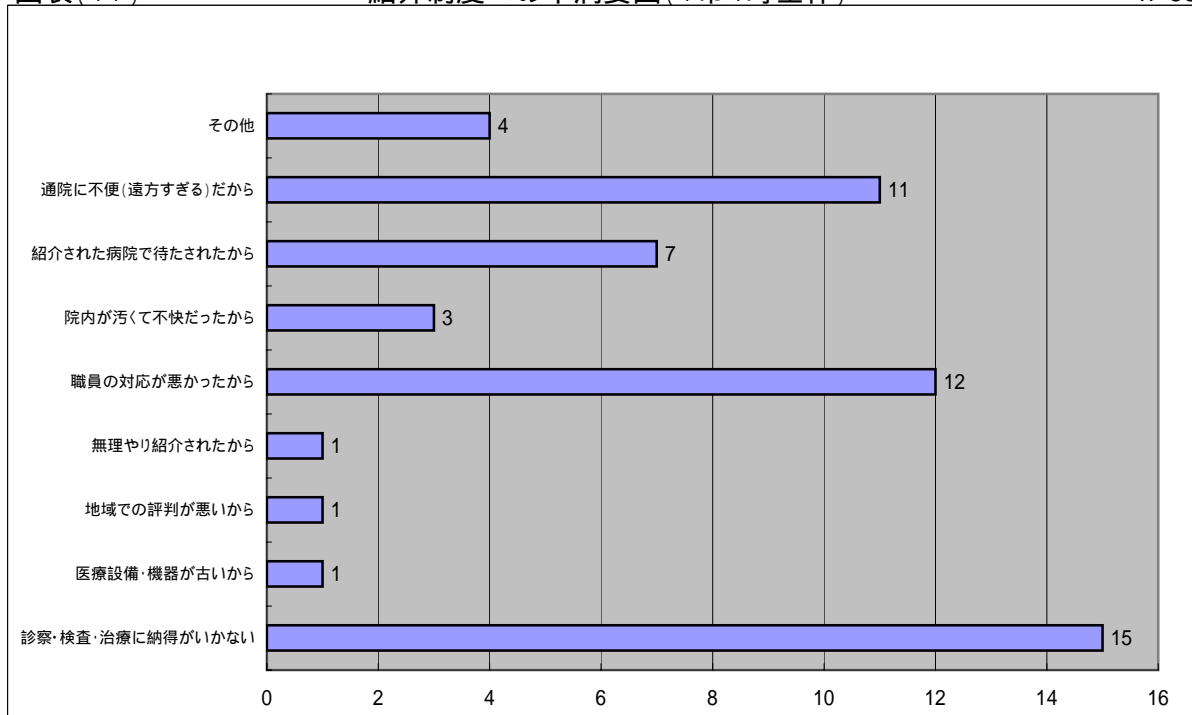
質問8の医療機関の選択理由では、2番目に評価されていた「診察・治療が上手だから」が、ここでは不満要因として多くの方から指摘されています。患者の方々にとって、診察・治療の技術やレベルが重要な要素であることが改めて感じられる結果となっています。

しかし、「診察・検査・治療に納得がいけない」と回答している方々からは、“医師や職員の説明不足”や“専門用語ばかりで理解できない”などの意見も多くあり、技術という意味を広く捉え、本来の医療技術だけの問題ではないことが分かります。

そもそも、個々の患者にとっては、医療技術を適正に評価することは難しいため、分かりやすく説明する能力やコミュニケーション能力も含めて、“医療技術”、“医師のスキル”として評価していることが分かります。

いずれにしても、紹介するうえで送る側の責任と受け手側の責任が重要となり、患者との信頼関係がなくなるような紹介をなくすための体制やシステム作りが必要となります。

図表(17) 紹介制度への不満要因(1市4町全体) n=55



質問17 検査や入院が必要な場合、どちらの病院に紹介してもらいたいですか。

1市4町全体をみると、「済生会宇都宮病院」474名（40.5%）が最も多くなっています。「自治医科大学付属病院」、「獨協医科大学病院」、「大田原赤十字病院」を選択している方もおり、域外へ患者が流れていることが分かります。

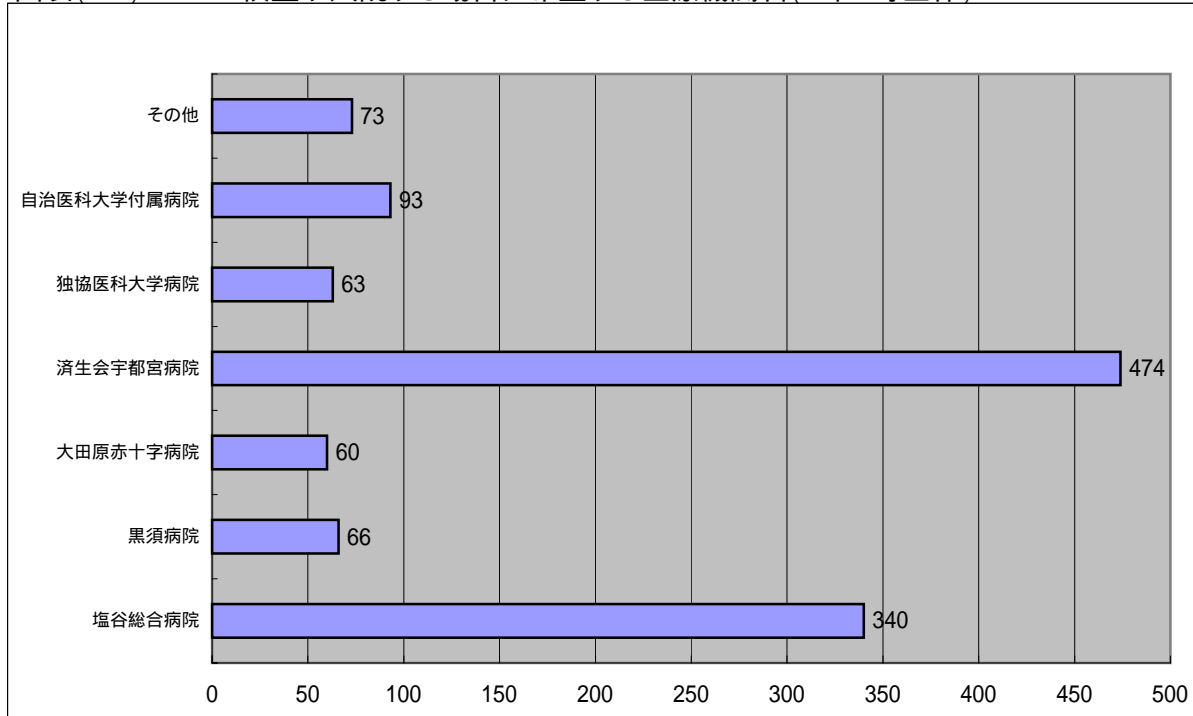
塩谷郡市医師会の域内では、「塩谷総合病院」340名（29.0%）、「黒須病院」66名（5.6%）となり、全体の34.6%となっています。

市町別にみると、

矢板市：「塩谷総合病院」154名（48.1%）、「黒須病院」3名（0.9%）
 塩谷町：「塩谷総合病院」68名（48.6%）、「黒須病院」1名（0.7%）
 氏家町：「塩谷総合病院」63名（19.6%）、「黒須病院」38名（11.8%）
 高根沢町：「塩谷総合病院」10名（3.8%）、「黒須病院」15名（5.6%）
 喜連川町：「塩谷総合病院」44名（37.0%）、「黒須病院」9名（7.6%）
 となり、地理的利便性の高い病院が選択されていることが分かります。

地域医療連携を推進していくうえでは、域外病院へ患者が流れている原因を追究するとともに、地域の中核病院としての位置付け、各病院や診療所の役割を明確にしたうえで、地域住民に認知・認識してもらうことが必要になります。

図表(18) 検査や入院する場合に希望する医療機関名(1市4町全体) n=1169



質問18 質問17で選んだ病院はどのような理由で選びましたか。(3つ以内)

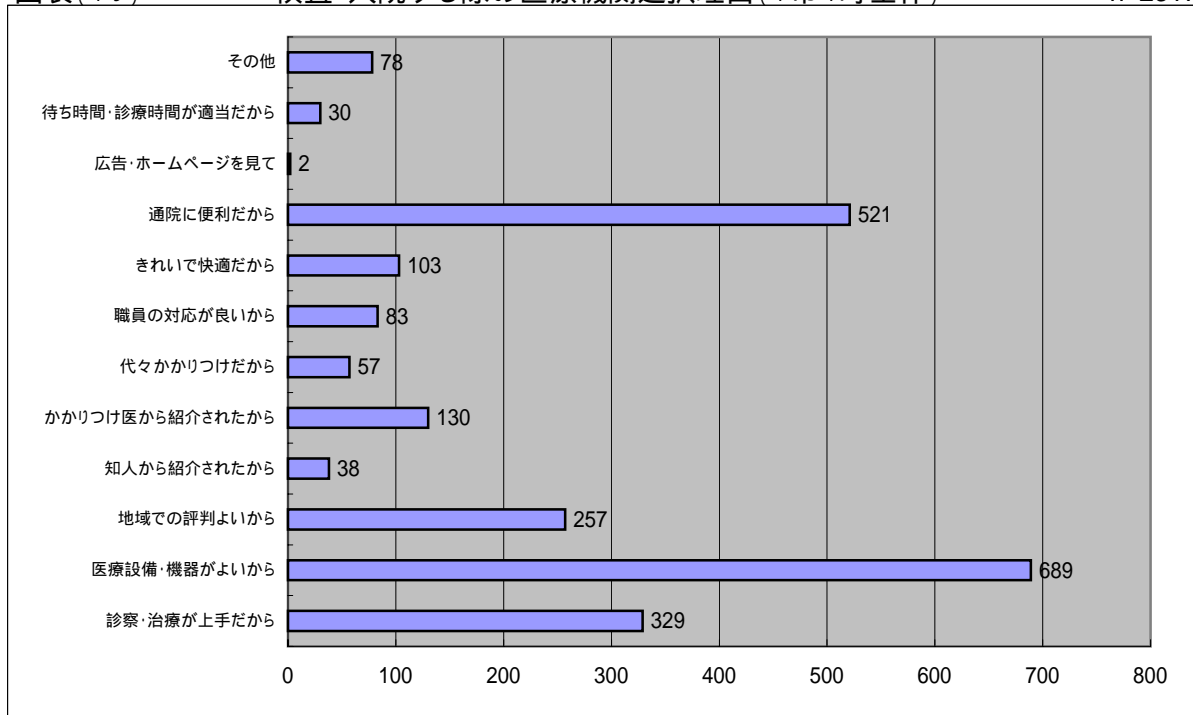
1市4町全体をみると、「医療設備・機器がよいから」689名(32.6%)、「通院に便利だから」521名(22.5%)、「診察・治療が上手だから」329名(14.2%)の3項目が多くの回答を集めています。

この3つの項目は、質問8の医療機関の選択理由で回答が多かった上位3つと共通していますが、検査や入院を意識した場合には、「通院に便利だから」より「医療設備・機器がよいから」が重視されていることが分かります。

この3つの項目は、地域住民が医療機関を選択する際に重要視していますので、「不満」と評価されるような医療機関は早急な改善が必要になります。地域医療連携を進めていくうえでは、地域の全ての医療機関がこれらの項目で一定の水準を保つことが大切になりますし、より「診療面」の評価を高めて行くための取り組みが必要になります。

さらに、地域医療連携を促進していくためには、「地域住民にとって、どのような連携体制が必要なのか」、「地域外の病院との関係をどうするのか」、「紹介先への患者の搬送方法をどうするのか」などを患者側の視点で考えていくことが重要となります。

図表(19) 検査・入院する際の医療機関選択理由(1市4町全体) n=2317



質問19 夜間・休日に急病となったとき、どちらの医療機関を受診しますか。

1市4町全体でみると、「塩谷総合病院」331名（27.4%）が最も多くなっています。

つづいて、「救急車を呼ぶ」（244名）と「地域の当番医療機関」（156名）、「黒須病院」（146名）が多くの回答を集めています。

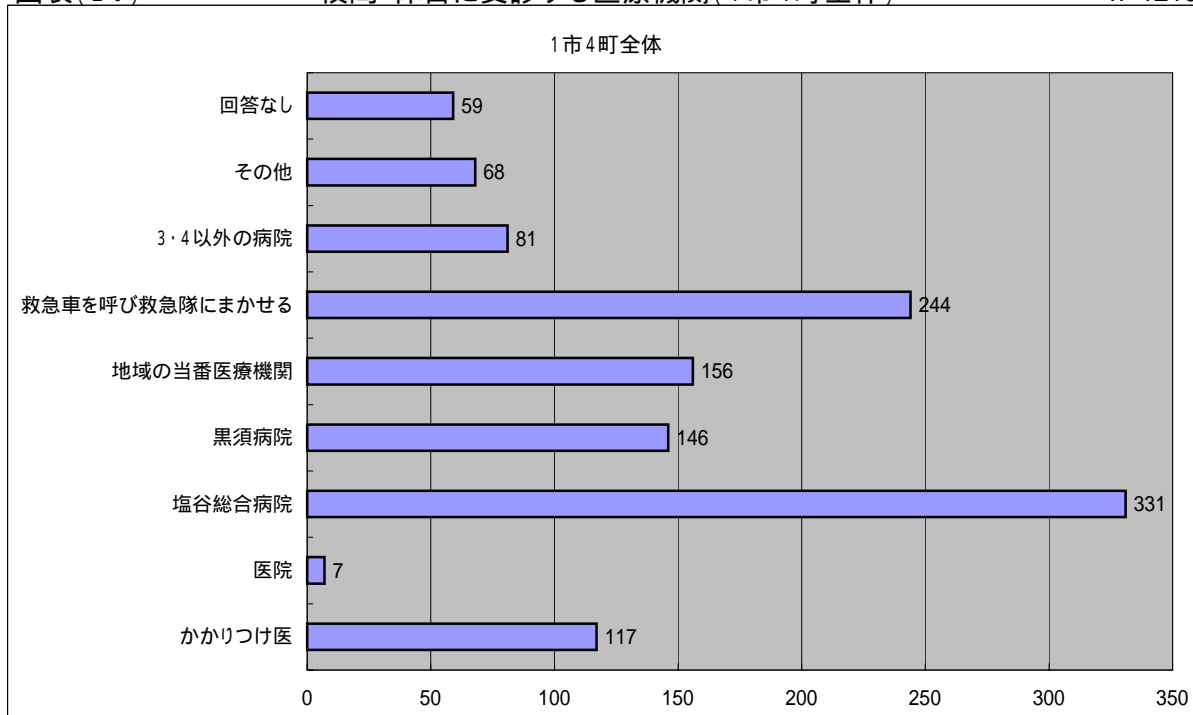
各市町別にみると、矢板市で「塩谷総合病院」（56.5%）、氏家町で「黒須病院」（32.0%）の割合が高くなっており、ここでも地理的な利便性を求める声が多くなっています。

質問23の自由記入欄にも夜間・休日や救急体制に関する不安の意見が多くあり、地域住民に対して、夜間・休日・救急体制の状況や科別毎の医師の配置などについて積極的にPRし、地域住民から認識してもらうことが必要になります。

また、地域の医療体制について、夜間・休日・救急体制などが充足しているのか患者の視点で検証することが必要となります。

厚生労働省の「医療提供体制の改革ビジョン」のなかでも、地域における必要な医療提供の確保として救急医療体制等の整備が課題としてあげられています。

図表(20) 夜間・休日に受診する医療機関(1市4町全体) n=1210



質問20 地域の医療機関からの案内やパンフレット(新聞、ホームページなど)により、あなたの知りたい医療に関する情報を得ることはできますか。

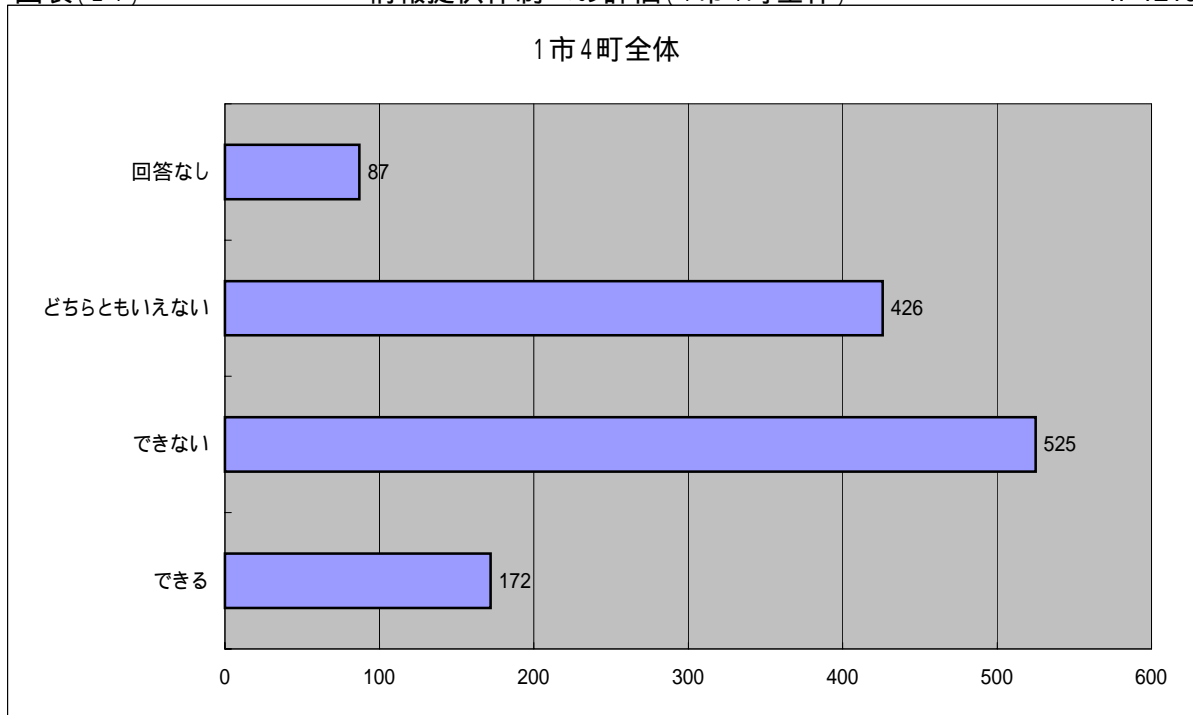
1市4町全体をみると、「できない」525名(43.4%)と回答された方が最も多く、「できる」と回答した方は、172名(14.2%)と低い水準になっています。

各市町別でも同様の結果となっており、医療に関する情報の提供方法については、地域医療機関と協力して進めていかなければならない課題となります。

質問12では、48.8%の方が「地域医療連携の仕組みを知らない」と回答しており、住民の方々に地域医療連携の仕組みを認識してもらうためには、早急に情報提供などの啓蒙活動が必要になると考えられます。

最近では、医療機関の情報の扱いが話題となる機会が多くありますが、地域住民の医療への関心を高めていくためにも、情報開示を推進することや患者とのコミュニケーションの場を積極的に作ることなど、情報が閉ざされている現状を変革していく取り組みが必要となります。

図表(21) 情報提供体制への評価(1市4町全体) n=1210



質問21 質問20で「できない」を選択した理由は何ですか。

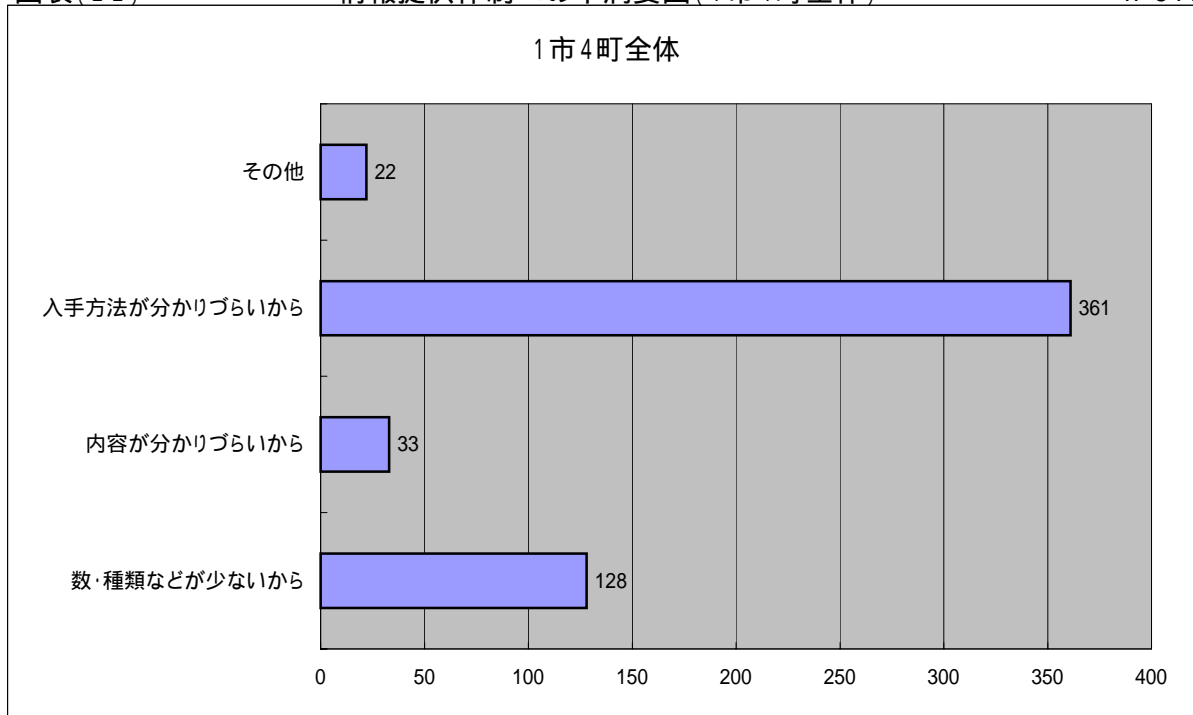
1市4町全体でみると、「入手方法が分かりづらいから」が361名（66.5%）となり、そもそも医療機関の提供する情報媒体にたどり着いていない方が多くいることが分かります。

「数・種類などが少ないから」128名（23.4%）の方々に関しても、情報媒体の不足を感じている結果となり、まずは、情報の受け手に必要な情報を届けるための取り組みが必要となります。

「内容が分かりづらいから」は、33名（6.1%）と少数にとどまっていますが、既述のとおり、情報にたどり着いていない人が多くいることに起因していることが考えられるため、まずは内容を評価できる程度の情報を受け手側に届けることが大切になります。

今後は、地域医療連携の仕組みに関心をもってもらい、この仕組みの必要性を医師、医療機関だけでなく、患者も含めて共通認識することが重要となります。

図表(22) 情報提供体制への不満要因(1市4町全体) n=544



質問22 あなたの住んでいる地域の病院、医院の科目やその数、利便性、及び医療の質や内容に点数をつけるとしたら、100点満点で何点ですか。

1市4町全体をみると、「70～79点」と回答している方が最も多く227名となっています。

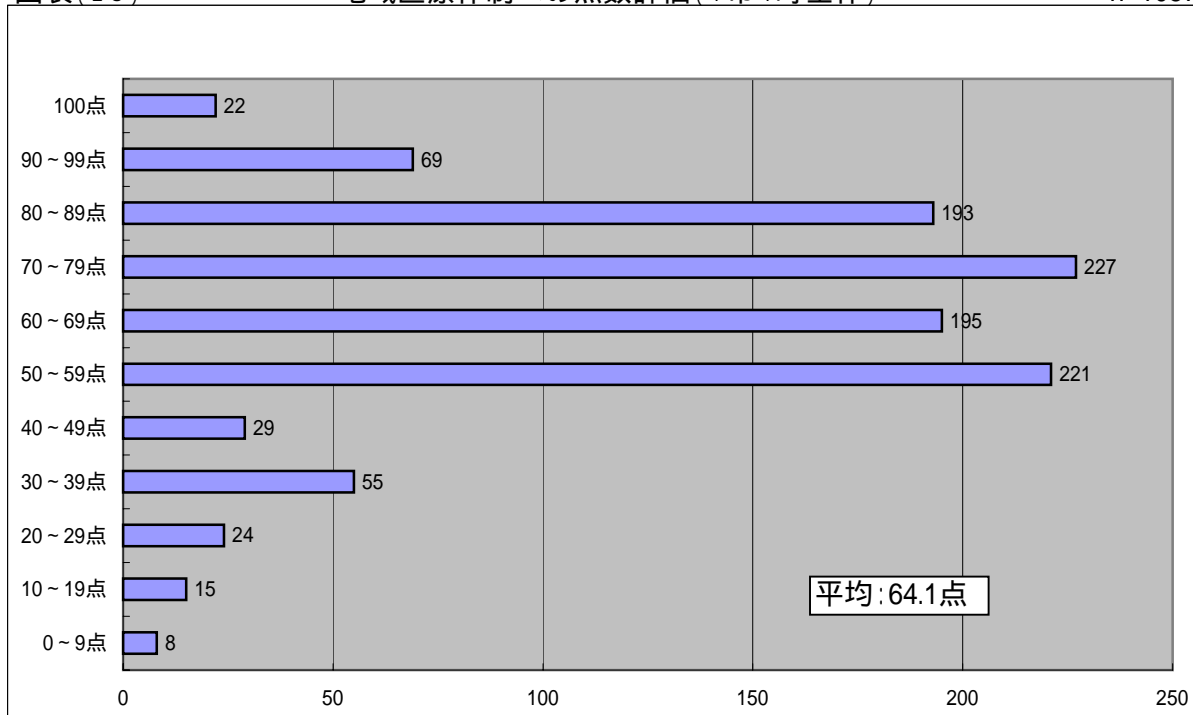
「50～59点」221名、「60～69点」195名、「80～89点」193名が上位を占めています。1市4町全体の平均点は、64.1点となり個別医療機関で実施しているアンケート結果（80～90点）と比較すると低い水準となっていますが、これは、「60点以下」と回答している人数が547人（45.2%）と多くなっているため、この方々の評価をあげていくための取り組みが必要となります。

市町別の点数分布をみると、かなりバラつきがあり、地域の医療体制に関しては、1市4町で統一的に取り組むべき課題と各市町ごとに取り組むべき課題があるものと考えられます。

市町別の平均点は、矢板市64.0点、塩谷町60.2点、氏家町66.1点、高根沢町62.9点、喜連川町64.4点となっています。

住民の方々の地域医療に対する現在の点数は、決して高い水準ではありませんが、今後の地域医療への期待や生活になくってはならないものだからこそ良くなってほしいとの切なる思いを感じさせる結果となっています

図表(23) 地域医療体制への点数評価(1市4町全体) n=1057



質問23 当地域の医療体制(医療機関)に対して、お気付きの点・ご意見がございましたら自由にご記入ください。

自由記入欄になりますが、回答者のうち538名(44.5%)の方が意見を記入しています。

個別医療機関が実施しているアンケート調査では、この自由記入欄への回答率は30%前後となっており、回答者の方々の医療への高い関心が感じられます。

全体的には、厳しい意見がほとんどですが、このアンケート調査の実施自体を高く評価する声や今後の改善に期待する声も多くあり、アンケート結果を受けて、医師会を中心にどのような取り組みを行っていくのが、今後の大きなテーマとなります。

今回、3,000名の地域住民の方々に対してアンケート調査を実施しましたが、アンケートが配布されたご本人だけでなく、ご家族や近所の方々、友人など地域住民の多くの方々が塩谷郡市医師会の地域医療連携の取り組みを認識し、注目することになります。

このアンケート結果を十分に検証したうえで、地域住民の方々が医師会や各医療機関の“変化”を感じることができるよう取り組みが必要となります。

主なご意見は、以下のとおりとなっています。

【不満や不安、改善を望むご意見】

特定科目ごとの医療機関数の不足
(特に眼科、耳鼻科、皮膚科の不足を訴える声が多数あります)
待ち時間が長いことへの不満
医師や職員の接遇への不満
休日、夜間、緊急時の医療供給体制への不安
診断、検査に関する説明不足
医療機関を選択する情報の不足

【満足、感謝のご意見】

診療技術、治療結果に対するお礼
職員対応への満足

図表(24)

自由記入欄のキーワード別分類(1市4町全体)

n=765

